

# 新型コロナウイルス感染拡大予防対策に 配慮した事業実施のためのガイドライン

特定非営利活動法人 福島県レクリエーション協会

令和2年5月18日作成  
5月29日一部改訂  
6月1日一部改訂  
8月8日一部改訂  
10月1日一部改訂

このガイドラインは、緊急事態宣言解除以降、さまざまなレクリエーション活動を再開するにあたっての基本的な考え方や留意点、そして、with CORONA、after CORONA の社会において、安全なイベント（事業）等の開催を日常化し、人の心を元気にするレクリエーション活動の心構えについてまとめました。

福島県レクリエーション協会の団体正会員、およびそれらの団体に所属する社会体育指導者、福島県内の市町村レクリエーション協会、およびその運営者、福島県レクリエーション協会に登録するレクリエーション指導者のみなさまの参考になればという思いで作成しています。あわせて、スポーツ庁、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会、そして公益財団法人日本レクリエーション協会が出しているガイドラインや、各種目の中央組織が出しているガイドライン等も参考にしてください。また、活動団体ごとに情報を共有しながら、独自のガイドラインを作成して新型コロナウイルス感染拡大予防に努めてください。

このガイドラインは、令和2年9月11日までの通知等を参考に、現在得られている知見に基づいて作成しております。福島県から出されている対策も適宜取り入れていますので、今後の状況により見直しが必要であれば、このガイドラインに反映させていただきます。

## 主催者が行う事前の準備

- 1 主催者は、事業の実施にあたり、「感染予防対策実施責任者」を選任する。
- 2 熱がある参加者、体調のすぐれない参加者の参加はお断りする。
- 3 主催者は、体温計を準備し、必要に応じて検温を行う。
- 4 主催者は、会場入り口に消毒剤を準備し、手指の消毒を徹底させる。
- 5 主催者は、事業開始前に会場に入り、机、いす、ドアノブ等の消毒を行うとともに、用具等の共有物や多くの人に触れるドアノブ等は、定期的な消毒を行う。

- 6 主催者は、更衣室やトイレ等、共通で使用する箇所の消毒もこまめに行う。
- 7 主催者は、マスクを忘れた参加者のために配布用、販売用のマスクを準備し、マスク着用率 100%事業を実施する。
- 8 主催者は、手洗い場には石鹸（ハンドソープなど）を準備し、「手洗いは 30 秒以上」等の掲示を行う。
- 9 主催者は、参加者受付時等に、必要な距離を取って並ぶことができるよう、目印等の設置を行う。
- 10 主催者は、受付スタッフには、必ずマスク等を着用させる。
- 11 主催者は、受付場所での書面の記入、現金の授受を極力避けるように工夫する。
- 12 主催者は、できる限り広い会場を確保して「3つの密」を避けることができるよう十分に配慮する。（屋内の場合、参加者数を収容定員の 50%に抑える。屋外の場合でも密集を避ける。）
- 13 主催者は、参加人数（入場者数）の制限や誘導、および会場内のレイアウトを工夫するなどして、「3つの密」を避けるよう十分に配慮する。
- 14 主催者は、休憩時間や食事の際には、距離を取って対面を避け、会話は控えめにするように注意を喚起する。
- 15 主催者は、食事の際にも、長時間マスクを外したままにならないよう、食後はマスクをして休憩するように注意を喚起する。
- 16 主催者は、もしもの場合の追跡を可能にするため、入場するすべての人（参加者、観覧者、スタッフ、主催者等）に、氏名、連絡先等を含む「個人票」を記入してもらい、データについては、一定期間（少なくとも 1 か月以上）保管の後、適切に処理する。
- 17 主催者は、もしもの場合の追跡を可能にするため、会場内における人の配置等がわかるように、動画、静止画で随時会場（観覧席等も含む）内の撮影を行い、データについては、一定期間（少なくとも 1 か月以上）保管の後、適切に処理する。
- 18 主催者は、やむを得ず湯茶の提供をする際にも、茶わん等の貸し出しは行わない。
- 19 主催者は、湯茶の提供をするスタッフに対して、手指の消毒、マスクの着用を厳守させる。
- 20 主催者は、湯茶の提供を利用する参加者に対して、利用前の手洗い、手指の消毒を呼びかける。
- 21 主催者は、感染拡大防止のために参加者（入場者）が順守すべき事項（「人と人との距離の確保」「マスク等の着用」「手洗い、手指の消毒」「体調チェック」等）を明確にするため、事前通知、会場内における掲出、口頭での注意をとおして協力を求める。
- 22 主催者は、参加者から新型コロナウイルス感染症を発症したとの報告があった場合には、すみやかに関係自治体の衛生部局等に報告するとともに、その指示に従う。

23 主催者は、政府提供の接触確認アプリ「COCOA」を、スマートフォンにインストールし、濃厚接触の確認を円滑にするよう、参加者に強くはたらきかける。

24 主催者は、全国および福島県内の感染状況に注意を払い、開催の見直しや自粛、人数制限等も含め、その時の各ステージで講ずべき施策に従って事業を実施する。

《参考》

### 個人票（スタッフ・参加者・観覧者）

ふりがな 氏名		年齢  歳
電話番号 (携帯)		
今日の体温	℃	
初めて 参加する人は 住所		
今日まで過去 2 週間の状況		
1 平熱を超える発熱	あり	なし
2 せき、のどの痛みなど風邪の症状	あり	なし
3 だるさ（倦怠感）、息苦しさ	あり	なし
4 味覚や臭覚の異常	あり	なし
5 身体が重い感じ、疲れやすい感じ	あり	なし
6 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無	あり	なし
7 同居家族や身近な知人に感染が疑われる人の有無	あり	なし
8 過去 14 日以内に、政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触	あり	なし
9 特定警戒都道府県への移動、または移動してきた者との濃厚接触	あり	なし

## 参加者が行う事前の準備

- 25 参加者は、当日または前日などに熱がある場合や体調がすぐれない場合、また、味覚や臭覚に違和感がある場合には、主催者に連絡して参加を取りやめる。
- 26 参加者は、同居家族や身近な人に感染が疑われる人がいる場合には、主催者に連絡して参加を取りやめる。
- 27 参加者は、マスク、手拭き用タオル等を必ず持参し、会場に入るときには、必ずマスク等を着用する。
- 28 参加者は、更衣室等を利用しなくて済むよう、必要な活動の準備をして参加する。
- 29 参加者は、水分補給の飲料を持参するものとし、主催者から提供された湯茶を飲むときには、自分専用のカップ等を準備する。
- 30 参加者は、会場内では必ず上履きスックに履き替える。
- 31 参加者は、必ず自分専用の汗拭きタオルを準備し、タオル等の貸し借りをしない。
- 32 参加者は、活動で使用する個人用具の貸し借りをしない。
- 33 ゴミは、必ず各自がビニール袋等に入れて密閉して持ち帰り、適切に処理する。
- 34 政府提供の接触確認アプリ「COCOA」を、スマートフォンにインストールし、濃厚接触の確認を円滑にする。

## スポーツ・レクリエーション活動の現場における

### 一般的注意事項

- 35 屋内でおこなわれる活動では、冷暖房中であっても、換気装置を作動させたり、可能な限り窓や出入り口を開放し、常に十分な換気を行う。
- 36 主催者、および参加者は、共通で使う用具（ボールなど）について、開始前、および活動中も適宜消毒をしながら使用する。
- 37 参加者は、グループでミーティングを行うときには、マスク等を着用し、適切な距離を保って行うようにする。
- 38 コート内でおこなわれるスポーツ・ゲームなどを行う場合で、コート内での活動が終了したときや、練習会、講習会等において一つのセッションが一段落したときには、必ずうがい・手洗い・手指の消毒等を行う。
- 39 レクリエーション講習会等でおこなわれるゲームおよびダンス（踊り）の際には、マスク等を着用する。
- 40 レクリエーション活動におけるゲームなどの応援についても、マスク等を着用し、控えめに行う。

- 41 レクリエーション活動として行われる音楽を伴う活動（音楽レクリエーション）等、歌を活用する活動は、マスク等を着用し、参加者同士の適切な距離を確保して行う。
- 42 ペア、もしくは少人数の参加者が互いに向かい合い、スキンシップが生じる活動（踊りを含む）をやむを得ず実施する際には、マスク等を着用し、当該活動終了後には、うがい・手洗い・手指の消毒等を行う。
- 43 クラフトの活動を行う際には、教室形式のレイアウトで行い、必ずマスク等を着用する。
- 44 クラフトの活動を行う際には、用具の貸し借りをしないで済むように、参加者に持参させたり、講師や主催者が十分な数量を準備するとともに、用具の消毒を徹底する。
- 45 主催者は、感染予防に必要な事項を遵守できない参加者には、他の参加者の安全を確保する観点から、途中退場を求めることもあり得る。
- 46 活動終了後は、会場の外などでのおしゃべりをせず、すみやかに帰宅し、うがい・手洗い・手指の消毒等をする。

～活動の反省も含めたおしゃべりはインターネットや電話で行いましょう。～

「心の元気づくり」としてのレクリエーションは、多様で多彩な活動を含みます。さまざまな特性のある種目が考えられます。でも、スポーツ・レクリエーションの活動は、どう転んでも、大声での歓声・声援等が想定される事業です。

ここに記したガイドラインは、あくまでも基本的な考え方です。ここに記したほかにも、各活動の特性に応じて、関係者間で情報を共有し、リスク管理の意識を高め、それぞれの現場に合った工夫を行い、新型コロナウイルスへの感染を防ぎましょう。

競技者、ボランティア、スタッフ、協会関係者等、  
活動に関わる全てのみなさまと、そのご家族の一人おひとりが、  
この感染症の特性を理解し、感染を予防する行動をとりましょう。  
それでも100%感染を防ぐ手立ては、残念ながらありません。

「体調が悪いけど、やっとできるようになったのだから  
我慢して練習に行こう。」

「ちょっと熱があるけど行ってみようか。」

「ちょっと顔を出すだけでも…。」

そう言った行動が、あなたが大切にしている家族、職場、チーム、  
仲間たちに感染を広げてしまう可能性があります。

福島県における感染経路の不明な感染者数は

3月 3人

4月 23人

5月 5人

6月 1人

7月 6人

8月 30人

9月 51人 です。

決して収束しているわけではありません。

違和感があったら「休む勇気」を持つこと。

異常があったら「報告する勇気」を持つことが大事です。

「新しい生活様式」がいつまで続くかはわかりません。  
今は、「同時呼吸・同時動作の一体感」より  
人と人とが不用意に近づかない「社会的距離」が大事です。  
でも、その先にはきっと、face to face の関係で、  
顔を見合わせて笑いあったり、声を掛けあったり…、  
快いスキンシップをとおして、「一体感」を感じたり、  
共に喜びあったりすることで、  
本当に「心を元気にできるレクリエーション」が  
待っていることを信じています。

レクリエーションは  
すべての人の生きる喜びなのですから。